

美術

1 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、美術の創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

観点	美術への 関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
趣旨	美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。	感性や想像力を働かせて豊かに発想し、よさや美しさなどを考え心豊かで創造的な表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、表現の技能を身に付け、意図に応じて表現方法などを創意工夫し創造的に表している。	感性や想像力を働かせて、美術作品などからよさや美しさを感じ取り味わったり、美術文化を理解したりしている。

※ 「思考・判断・表現」の「表現」は、基礎的・基本的な知識・技能を活用して学習活動において思考・判断したことと、その内容を表現する活動とを一体的に評価することを示すものであり、美術科で示す領域「A表現」とは異なる。「A表現」の学習指導に係る学習評価については、美術科で設定される評価の観点をふまえて行うことが適当である。

3 改訂のポイント

- 教科の目標に、「美術文化についての理解を深め」を加え、美術を愛好する心情と感性を育て、美術の基礎的な能力を伸ばすとともに、生活の中の美術の働きや美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを一層重視する。
- 「A表現」の内容を「(1) 感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」「(2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。」「(3) 発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。」とし、内容を発想や構想の能力と創造的な技能の観点から整理する。
- 我が国の美術についての学習を重視し、第1学年に「美術文化に対する関心を高める」学習を新たに示し、3年間で系統的に美術文化に関する学習の充実が図られるようにする。自分なりの意味や価値をつくりだしていく学習を重視し、第1学年に「作品などに対する思いや考えを説明し合う」学習を取り入れ、3年間で説明し合ったり批評し合ったりするなどの言語活動の充実が図られるようにする。
- 表現及び鑑賞の各活動において、共通に必要な資質や能力を〔共通事項〕として示す。〔共通事項〕は、「A表現」及び「B鑑賞」の学習を通して指導し、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力が十分育成されるようにする。
- スケッチや映像メディア、漫画、イラストレーションなどは、生徒が学習経験や能力、発達特性等の実態を踏まえ、自分の表現意図に合う表現形式や表現方法などを選択し創意工夫して表現できるように配慮事項に示す。

4 評価規準と展開例

1) 題材名 【第2学年】

「心惹かれる、あの場所を～校舎内の風景を描く～」(全8時間) 「A表現(1)(3)」 「B鑑賞」

2) 題材のねらい

何気なく見ている校舎や教室などの場所から、自分だけにしか見つけられないよさや美しさを見いだすことに関心をもち、その場所から感じ取った色彩の特徴や美しさなどの表現方法を工夫し、創造的に表現するとともに、場所や描いた作品からよさや美しさを感じ取り味わうことができる。

3) 題材の評価規準及び学習に即した評価規準

① 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 校舎や教室などの場所を深く見つけ、感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち、主体的に心豊かな表現の構想を練ったり材料や用具を生かしたりしようとしている。	校舎や教室などの場所を深く見つけ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、考えたことなどを基に、感性や想像力を働かせて主題を生み出し、色彩の明るさや鮮やかさ、量感や奥行きなどを考え、心豊かな表現の構想を練っている。	形や色彩などの表し方を生かし、主題を生み出すための自分の表現意図に合う表現方法を生かしたり着彩の順序などを考え見通しをもちながら、創造的に表現している。	色彩の特徴や空間の雰囲気などから、対象のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

※ 「A表現」「B鑑賞」の題材であるため、「美術への関心・意欲・態度」をそれぞれ示した。

② 学習活動に即した評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
表現 関① 校舎や教室などの場所から、感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち主体的に主題を生み出そうとしている。 表現 関② 形や色彩などの表し方など、材料や用具を主体的に工夫して表現しようとしている。 鑑賞 関③ 作品から感じ取った色彩の特徴や空間の雰囲気などから、作者の心情や意図、そのよさや美しさを感じ取り、自分の思いや考えをもち、主体的に感じ取ろうとしている。	発① 校舎や教室などの場所を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、考えたことなどを基に、感性や想像力を働かせて主題を生み出している。 発② 主題など基に、構図や、色彩の明るさや鮮やかさ、量感や奥行きなどを考え、心豊かな表現の構想を練っている。	創① 形や色彩などの表し方を生かし、主題を生み出すための自分の表現意図に合う表現方法を生かしたり着彩の順序などを考え見通しを持ちながら、創造的に表現している。	鑑① 色彩の特徴や空間の雰囲気などから、対象のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。

4) 題材の指導計画と評価計画

時	●学習のねらい・学習活動	評 価			
		関	発	創	鑑
1	<p>〈課題把握・発想や構想を練る〉</p> <p>●校舎や教室などの場所を見つめ、感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに関心をもち主題を生み出すことができる。</p> <p>指 「主題を生み出す」とは、自らが強く表したいと心の中に思い描くことである。主題が生み出されないと、発想や構想が弱くなる。また次の創造的な技能も活用できにくくなる。指導に当たっては、生徒が「何を描きたいのか、どう思いで表現しようとしているのか」という生徒自身の思いを読み取り、教師自身がその主題をよく理解することが必要である。そのために他者の意見を聞いたり、ワークシートに記入するなどし、自分のイメージを膨らませることが大切である。</p>	○			
					<p>評 この観点の評価対象は、生徒が「発想や構想の能力」「創造的な技能」「鑑賞の能力」を身に付けようとしていたり、発揮しようとしていくことへ向かう関心・意欲・態度である。特に表現活動では、発想や構想を練るためにアイデアスケッチを熱心に繰り返し描いたり、自分の表現に近づけるように絵の具で色を試したり塗り重ねたりするような能動的な姿が授業の中で表れることがある。そのため、机間指導の際にこのような姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切である。</p> <p>【観察・ワークシート】</p>

指 自分が感じるよさや美しさの根拠はどこからもたらされるのかを、構図や色彩等を手がかりに見いだすことができるように助言する。

- ・参考作品などから作者の意図や表現の工夫などについて意見を述べ合う。
 - ・校内写真を見て、心惹かれる雰囲気のある場所を考える。
 - ・その場所に行き、場所のもつ雰囲気や、全体の色彩の感じ、光の具合などを確認する。
 - ・ワークシートを記入する。
- ・なぜそこに惹かれるのか、描きたいと思ったのかをグループごとで伝えあったりしながら、自分の考えを深める。

指 この鑑賞は、次時の関心・意欲・態度を高めるためであって評価はしない。また、そのことを踏まえて学習活動を設定していることを意識し、指導を行っていくことが大切である。

発① 校舎や教室などの場所を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、考えたことなどを基に、感性や想像力を働かせて主題を生み出している。【発言内容・ワークシート】

- 〈制作活動〉
- 主題から、どのような雰囲気で描きたいのかを考えながら、構想を練り、自分の表現意図に合う構図や色彩等を工夫することができるようにする。
 - ・主題を基に、構図を考えながらアイデアスケッチする。

指 描く場所の選定では、安全に十分配慮させ、教師もその確認を行う。

- ・アイデアスケッチを基に構想を深め、着色方法も別の用紙に試すなどしながら自分の表現方法を探り、制作をする。

指 発想や構想の能力を高めるためにアイデアスケッチで構想を練ったり、前時で聞いた他者の意見を反映させるなどしながら自分の主題を基に表現できるようにする。

評 「創造的な技能」は制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって現れるものである。ここでは、作品から表現方法の工夫等を制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の「創造的な技能」の高まりを読み取る大切である。

指 見上げる、見下ろすなど視線等を工夫することで、描きたいイメージに近づくようにする。

関② 形や色彩などの表し方など、材料や用具を主体的に工夫して表現しようとしている。【制作の様子】

発② 主題など基に、構図や、色彩の明るさや鮮やかさ、量感や奥行などを考え、心豊かな表現の構想を練っている。【アイデアスケッチ】

評 発想や構想は、制作が進む中で徐々に具体的な形になり、更にそこから深まることが多い。ここでは、描く場所に対してどのような構図や色彩等で表現すれば、主題に近づけることができるか試行錯誤している様子や、制作が進む中で見られる能力の高まりを、アイデアスケッチから読み取ることが大切である。

創① 形や色彩などの表し方を生かし、主題を生み出すための自分の表現意図に合う表現方法を生かしたり着色の順序などを考え見通しを持ちながら、創造的に表現している。【作品】

- 〈鑑賞〉
- 友人の作品から表現の意図や工夫などを感じ取ることができるようにする。
 - ・ワークシートに場所選定の意図や表現の工夫などを書く。
 - ・グループごとに、お互いの作品を鑑賞し、批評し合う。

評 なぜそう感じたのかを根拠を持ってワークシートに記述しているか、他者の作品のよさに気付いているかを見取る。そのためにの〔共通事項〕などの視点から、再度作品を鑑賞し、自分の価値意識を確認することも大切である。

関③ 色彩の特徴や空間の雰囲気などから、対象のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。【鑑賞の様子】

鑑① 色彩の特徴や空間の雰囲気などから、対象のよさや美しさ、作者の心情や意図を感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。【ワークシート、発言内容】

- ◇完成作品からの評価
- ◇ワークシートからの評価

発② **創①** **鑑①**

評 発②、創①については、完成作品から再度評価し、授業内での評価を確認し、必要に応じて修正する。

② 本時の展開

学習活動	教師の支援	評価【評価方法】
<p>○参考作品を見ながら、どんな雰囲気を感ずるか、どのような部分に魅力を感じるかを、グループで話し合う。</p> <p>指〔共通事項〕の視点を取り入れるなど、共通の視点を与えることで、話し合いが深まる。</p> <p>指 一人一人の主題を言葉で表現することで、より明確にさせる。</p> <p>何気なく見ている校舎や教室などの場所から、自分だけにしか見つけられない「よさ」を表現しよう。</p>	<p>◆「きれいだ」「すきだ」ではなく、色彩や、光や影、構図などに視点をしぼるようにながす。</p> <p>◆どこを、どのように感じたのか根拠を持って意見交換ができるようにながす。</p> <p>◆普段何気なく見ている校舎や教室も、光の具合や色彩、視点を考えることで、思いもよらない「よさ」「美しさ」を発見することができるをおさえる。</p>	<p>関① 校舎や教室などの場所を見つめ、感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに興味を持ち主体的に主題を生み出そうとしている。</p> <p>【観察・ワークシート】</p> <p>評 感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに興味を持ち、主体的に表現をしていこうとする意欲や態度を見取る。</p>
<p>○課題の説明を聞く。</p> <p>○校内写真を数点見ながら、「自分だけにしか見つけられないよさ」のある場所を想起する。</p> <p>○時間を決め、場所を探す。</p> <p>○場所を決定した生徒は、ワークシートに記入する。</p> <p>○なぜそこに惹かれるのか、描きたいと思ったのかをグループで伝え合い、気付いたことをワークシートに記入する。</p> <p>○次時の活動内容を知る。</p>	<p>◆校内にあるものを思い出すために、写真を数点見せる。</p> <p>指 校内写真は、場所のみを確認するだけにし、発想や構想の広がりを限定させないよう配慮する。</p> <p>◆校舎や教室などの場所から、感じ取った形や色彩の特徴や美しさなど、自分がその場所のどんな雰囲気を表現したいのか等を、ワークシートにまとめ、主題を明確にさせる。</p> <p>◆ワークシート等をもとに自分の価値意識を伝え合う中で、再度自分が場所から感じたことや表現したいことを確認させる。</p> <p>指 伝え合う中でいろいろな考えに気付かせることが大切である。また、その考えを整理することを通じて、自分の考えを振り返り、考えを深めることも重要である。そのためには、それぞれの考え方の違いや特徴を確認し合うことも必要である。</p>	<p>発① 校舎や教室などの場所を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさ、考えたことなどを基に、感性や想像力を働かせて主題を生み出している。</p> <p>【発言内容・ワークシート】</p> <p>評 グループでの意見交換で感じたことなどを基に、自分がその場所のどんな雰囲気を表現したいのか等をワークシートから見取る。</p>

③ 本時の評価

	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を要すると判断される生徒の手立て
美術への関心・意欲・態度	・光や影、構図などから新たな表現があることに気づき、自分が描きたい場所に対する思いを膨らませ、主体的に主題を生み出そうとしている。	・自分が描きたい場所に対する思いを持ち、主体的に主題を生み出そうとしている。	・参考作品を見ながらグループで話した内容を想起させる。
発想や構想の能力	・光の具合や色彩、視点を考えることで、主題に近づくような表現方法を工夫し構想を練っている。 ・グループで話し合った意見を参考にしながら、光が差し込んでいる感じや風が吹いている様子、構図や着色の方法を基に、自分の描きたい雰囲気を考えている。	・選んだ場所の光の具合や色彩、視点を考えるなどして、構想を練っている。 ・グループで話し合った意見を参考にしながら、自分の描きたい雰囲気を考えている。	・生徒の思いを聞き、形や色彩などがもたらす効果を確認し、主題を生み出す手立てを示す。 ・デジタルカメラや構図枠等を用いて、主題にあった構図の手立てとする。

5) 本時の学習 (1 / 8 ~ 2 / 8)

① 本時のねらい

校舎や教室などの場所を見つめ、感じ取った色彩の特徴や美しさなどを見いだすことに興味を持ち、主題を生み出すことができる。